

## 学位論文要旨

### 笠間焼の作業過程における文化的景観の シーンの抽出に関する研究

茨城大学理工学研究科  
社会インフラシステム科学専攻  
仲根聡子

窯業や製造に関する作業過程のシーンを抽出するためには地表面に刻み込まれた時間的な積み重ねの痕跡から人間活動及びその展開を総体的に読みとく、地域の人々が暮らす「生きられた空間」として景観を描写することが重要である。窯業の文化的景観は作業過程が時間軸において変容しており、断片として痕跡が少ないため歴史の変遷から捉えようとしても明確に抽出し難い。ここでは時間軸で歴史の変遷から作業過程のシーンの変容を抽出する研究アプローチが必要である。しかしながら、我々が生きた痕跡であるにもかかわらず、このような作業過程のシーンを抽出する方法が確立していない。

そこで、本研究の目的として、現存する登り窯や笠間焼の開祖である久野窯の作業過程を通して、作業環境と作業行為から作業過程のシーンを抽出する手法を構築する。具体的には歴史的な変遷に基づき、久野窯の作業過程を時間軸で4つに分類し、4つの時期別に作業環境と作業行為を考察する。本研究で主題としている作業過程におけるシーンを抽出する手法は、作業過程を細かく作業様相に分解し、各作業様相において作業環境と作業行為の考察に基づいてシーンを抽出することを提案する。笠間焼の文化的景観は窯業が生業である作業過程の「生きられた空間」と「作業環境」と「作業行為」から形成されると考えられる。作業過程とは、文化的景観を形成する窯業に関連する作業の過程を示し、作業様相ごとに分解される作業環境と作業行為から形成される。作業様相とは、作業過程を詳細に分解した様相のことである。作業環境とは様々な周辺要素を含み、土地の生業の歴史、地勢、気候、土壌、使用されている道具と材料から構成されるとした。作業行為とは、文化的景観を形成する窯業の作業過程における人の行為、作陶行為を示す。

研究方法はフィールドワークでヒアリングを用い直接、現存する登り窯や久野窯の窯元に話を聞いた。ヒアリングの内容は生業、作業過程、関連施設の使われ方であり、また、作陶体験もした。笠間焼の開祖、久野窯には74回のヒアリングを行った。さらに、現存する笠間焼の登り窯や窯業の関連施設を測量し作図した。それぞれの笠間焼作陶家の窯元には10回以上、さらに、茨城県観光物産課や笠間市教育委員会、笠間市商工観光課、笠間市立図書館や茨城県立陶芸大学校や茨城県立陶芸大学校、笠間焼協同組合を個別に訪ねて話を聞いた。

研究事例の笠間焼の開祖久野窯では、「笠間陶器沿革誌」（久野家に伝わる笠間焼の歴史。笠間図書館保管）で歴史や窯元の活躍などを調べ、生きられた空間の時間軸（施設の変化、歴史、時代背景）で始動期、活動期、復興期、転換期と4期に分類し、作業過程のシーンを分解して分析した。

本研究によって主に以下の3点が明らかになった。

まず、笠間焼の窯業の作業過程を示し、次に作業過程を作業様相に詳細に分解し、各作業様相に対応する作業環境や作業行為のシーンを抽出する方法を用いて久野窯を分析した結果、特徴あるシーンが抽出されたことから、この手法は有効であることが示された。

次に、作業過程を時間軸で4期に分類し、作業環境と作業行為を検討した。その結果、作業環境は採光のある成形場、風通しの良い施釉場、適した地形と風向きのある登り窯を基軸に作業過程の順が一筆書きとなるように、母屋や長屋などの生活場に接続していることが明らかになった。久野窯以外の現存する登り窯の窯元もほぼ同じような作業過程であることが示された。作業行為は社会情勢に応じて大物から小物に変わったが、笠間の土を用い、またそれらの土を釉薬とした流しかけや浸し掛けで厚みや色つやを表現する技法は維持されていることが明らかになった。

さらに、作業過程の作業環境と作業行為がシーンの分解に基づいて分析された。その結果、土の粉碎、土濾し、土練、天日干しや陰干し、成形、窯詰め、焼成、祈祷に関する作業環境や作業行為は維持が確認されたことから、これらがシーンとして抽出された。作業環境は一見すると機械化や電化により変化したように見えるが、作業過程に沿った合理的なものであり本質は維持されていることが示された。また、現存する登り窯の作業過程は、窯毎に異なる部分もみられるが基本的な伝統的工程は変容せず維持されていることが明らかになった。窯業のシンボルである登り窯はそれぞれ窯毎に、窯の向き、焼成の部屋、大きさ、広さなどが異なるが、文化的景観としての煙突からの黒煙や窯焚きの火入れなどの特徴ある窯業のシーンが抽出され、生きられた空間の痕跡のひとつであることが示された。

本研究で提案した手法を用いて作業環境や作業行為から窯業のシーンの変容を論じることは有効であるため、これまで抽出することが難しかった古くから操業の続く酒蔵、味噌蔵、醤油蔵などの生活と生業に基づくシーンを抽出する方法論として活用することができ、地域資源の発掘と保存再生に役立てることができる。

最後に、この手法を活用して作業環境と作業行為に基づくシーンの抽出は作業様相を考察することが可能となるので、シーンを補強したり再構築したりすることによって、文化財や伝統的工芸品の文化的価値を高められるように活用することが望ましい。保存再生するにはこれらのシーンを考慮して、文化的価値を継承する必要がある。